



ヘルメットをかぶろう

●点検整備を充分にしよう ●正しい服装で安全運転しよう

取扱説明書をよく読んで
安全な運転をしましょう。

ホンダ
NS-1

取扱説明書



ご案内

このたびはホンダ車をお買いあげいただきありがとうございました。

お車や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいた〈ホンダ販売店〉または下記の〈ご相談窓口〉にお気軽にお申しつけください。

なお、各地区のホンダ二輪代理店でもお受けいたしております。

名 称	電 話 番 号	郵便番号	所 在 地
本田技研工業株式会社 お客様相談部 東 京	03(3423)4211	107	東京都港区南青山2-1-1
本田技研工業株式会社 お客様相談部 札 幌	011(781)2929	065	北海道札幌市東区本町2条10-2-29
本田技研工業株式会社 お客様相談部 仙 台	022(288)6561	983	宮城県仙台市若林区六丁の目西町1-10
本田技研工業株式会社 お客様相談部 名古屋	052(363)2929	454	愛知県名古屋市中川区五月通4-22
本田技研工業株式会社 お客様相談部 大 阪	0720(29)7755	572	大阪府寝屋川市池田中町2-12
本田技研工業株式会社 お客様相談部 福 岡	092(962)2466	811-01	福岡県粕屋郡新宮町大字下府字塩出599

- 所在地、電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。
- ホンダ二輪代理店につきましては別冊「整備手帳」の住所一覧をご覧ください。

ご乗車の前に

この取扱説明書には、お買いあげいただいたお車の正しい取扱いかた、安全な運転のしかた、簡単な点検の方法などについて説明してあります。

より快適に、より安全にお乗りいただくために、この説明書をぜひお読みください。また整備手帳、セーフティポイント(安全にお乗りいただくためのアドバイス)もぜひお読みください。

- 車両の仕様、その他変更により、本書の写真および絵などが実車と異なる場合がありますのでご了承ください。
- この車は1人乗りです。2人乗りは、安全上からもまた法律でも禁止されています。
2人乗りはやめましょう。

お買いあげになりましたら、ホンダ販売店で「取扱説明書」「整備手帳」「セーフティポイント」を受け取り、下記の説明を受けてください。

- ★お車の正しい取扱いかた
- ★保証内容と保証期間
- ★車両受領書・保証書受領書記入・捺印
- ★点検・整備について

目 次

安全運転のために	4
各部の名称	13
メータの見かた、使いかた	15
計器類	15
速度計(スピードメータ)	15
積算距離計(オドメータ)	15
エンジン回転計(タコメータ)	16
警告灯・表示灯	17
速度警告灯	17
オイル警告灯	17
水温警告灯	18
方向指示器表示灯	18
ニュートラル表示灯	18
サイドスタンド表示灯	18
スイッチの使いかた	19
メインスイッチ	19
前照灯(ヘッドライト)	20
方向指示器スイッチ	21
ホーンボタン	21
装備の使いかた	22
ラゲッジボックス	22
ハンドルロック	24

ロアフェアリング	25
リヤカウル	26
書類、携帯工具入れ	27
ガソリンの補給	28
燃料コック	29
正しい運転操作	30
エンジンのかけかた	30
チェンジのしかた	33
走りかた	34
ブレーキの使いかた	36
点検、整備を安全に行うために	37
運行前点検・定期点検	41
運行前点検	42
前日の異状箇所の点検	43

ブレーキの点検	43	シャシ各部の給油脂状態	65
タイヤの点検	45	簡単な整備	66
エンジンオイル量の点検	47	ブレーキ液の補給	67
燃料の量の点検	47	クラッチレバーの遊びの調整	69
冷却装置の点検	48	バッテリーターミナル部の清掃	70
灯火装置、方向指示器の点検	49	ヒューズの交換	72
後写鏡(バックミラー)の写影の点検	49	エンジンオイルの補給	74
自動車登録番号標(ナンバプレート)の汚れ、 損傷の点検	49	ドライブチェーンの給油	76
反射器の汚れ、損傷の点検	49	冷却水の補給	77
6 か月点検	50	車のお手入れ	78
かじ取りホーク(フロントホーク)の点検	51	色物部品をご注文のとき	79
ブレーキの点検	52	マフラの純正マークについて	80
タイヤの点検	56	フレーム号機	81
バッテリー液量の点検	58	エンジンが始動しないとき	82
クラッチの点検	59	主要諸元	83
ドライブチェーンの点検	60	サービスデータ	85
エンジンオイルの点検	61		
トランスミッションの点検	62		
燃料漏れの点検	64		
冷却水量の点検	64		
灯火装置、方向指示器の作用の点検	65		

安全運転のために

ここにあげた項目は日常の走行上非常に基本的なものですので、これらのことを守って安全運転および上手なオートバイ操作を心がけましょう。

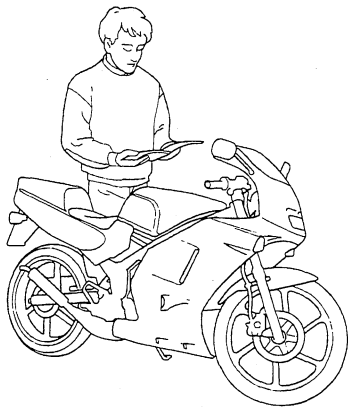
車を購入された当初は、いろいろな注意をはらって運転しますが、少し慣れてくるとこれらの注意を忘れがちになり、事故を起こす場合があります。

車に乗るとき、いつも心がけなければならない重要な注意事項を書いた「安全項目ラベル」が車に貼ってありますので、これらの注意をいつもお守りください。

- ☐ ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- ☐ 法定速度を守りましょう。
- ☐ マフラーは熱くなります。人が触れない場所にとめましょう。
- ☐ 安全運転、迷惑防止のため違法改造はやめましょう。
- ☐ ヘッドライトは昼間も常時点灯しましょう。
- ☐ 定められた点検整備を励行しましょう。

運転する前に

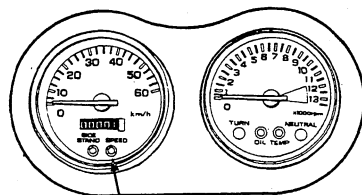
- 取扱説明書をよく読んでください。



あなたのお車には運輸省の指導により、スピードメータ部に車の速度が30km/hを越えると注意をうながす速度警報装置(点滅式)が装備されています。

運転に際しましては下記の内容を十分ご理解のうえ、正しい取扱いと安全運転を心がけてください。

- あなたのお車の法定最高速度は30km/h。
- 2人乗りは出来ません。
- ルール・マナーを守って安全運転を心がけましょう。
- お出かけの前の点検をお忘れなく。
- 定期点検は、必ず受けてください。
- 「セーフティポイント」をよくお読みください。

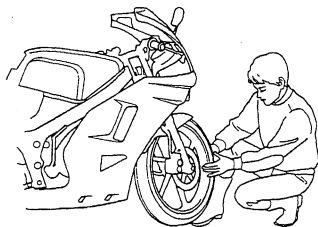


速度警報装置

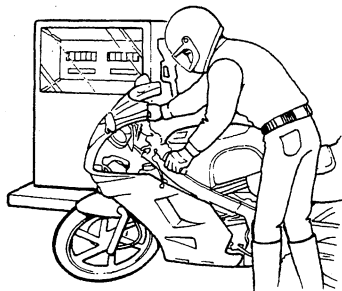
- 運行前点検を行ってください。

車は常に清潔に手入れをし、定められた点検整備を必ず行いましょう。

運行前点検は、42 ページ参照。



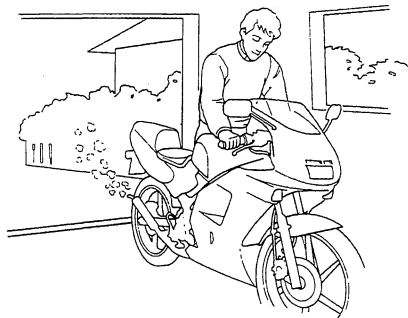
- 補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。



- 6 か月点検をうけてください。

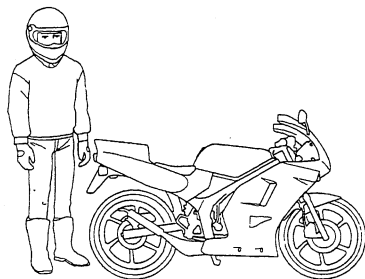
6 か月点検は、50 ページ参照。

- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。エンジンは、風通しの良い場所でかけてください。



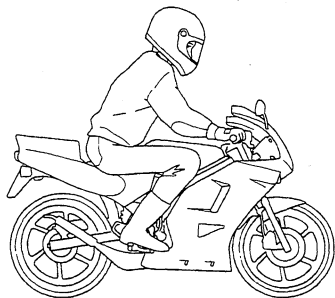
服装

- 運転者を守るヘルメットを必ず着用しましょう。グローブ・ゴーグルなど着用するよう心がけてください。
- 運転を阻害するような服装はやめましょう。ブレーキレバーやクラッチレバーに引掛かったり、ドライブチェーンなどの回転部分に巻き込まれたりして危険です。
- ブレーキ操作やチェンジ操作に支障をきたすようなはきものはやめましょう。



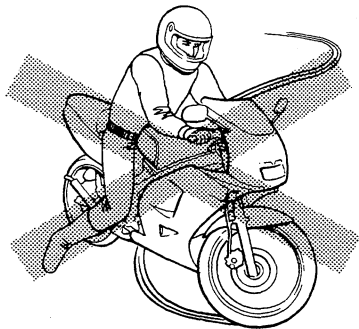
乗りかた

- 乗車するときは、両手でハンドルを握り、両足をステップに置いてください。



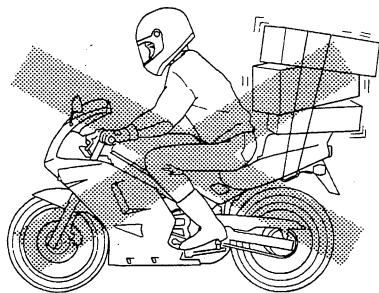
- 急激なハンドル操作や、片手運転は避けてください。

これは、すべての二輪車の安全運転の原則です。



荷物

- 荷物を積んだときは、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。積載するときは、“積み過ぎない”、“荷物を固定する”など十分注意し、安全に走行してください。



改造

- 車の構造や機能に関する改造は、操縦性を悪化させたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることになります。このような改造は法律に触れることは勿論、他の迷惑行為となります。車の改造は保証が受けられません。

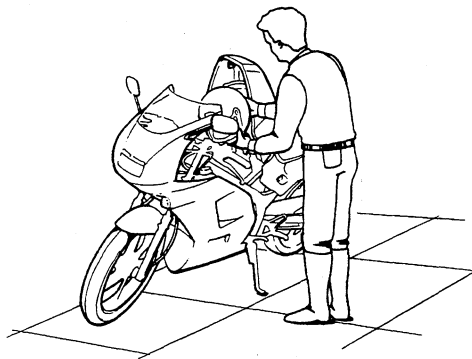
駐車

サイドスタンドを使用するときの駐車について

- 車は水平な場所にハンドルを左にきって駐車しましょう。

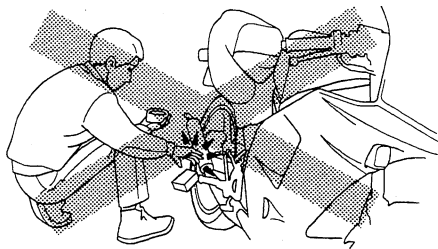
次のような状態では、車が不安定になり、転倒するおそれがあります。

- ハンドルを右にきった状態での駐車。
傾斜地、砂利を敷いた所、でこぼこな所、地面の軟かい所等での駐車。
- やむをえず上記のような不安定な場所に駐車せざるを得ないときは、車の転倒・動き出しのないよう、安全処置に十分留意してください。



- 交通のじゃまにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。
- マフラは熱くなります。人が触れない場所にとめましょう。

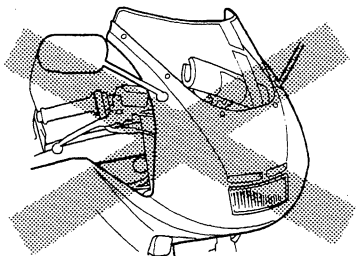
-
- エンジン回転中や停止直後は、エンジン本体やマフラの一部が熱くなっています。直接触れないでください。



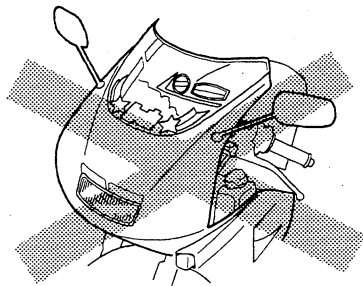
フェアリングの取扱い

フェアリングの取扱いには次の注意事項をお守りください。

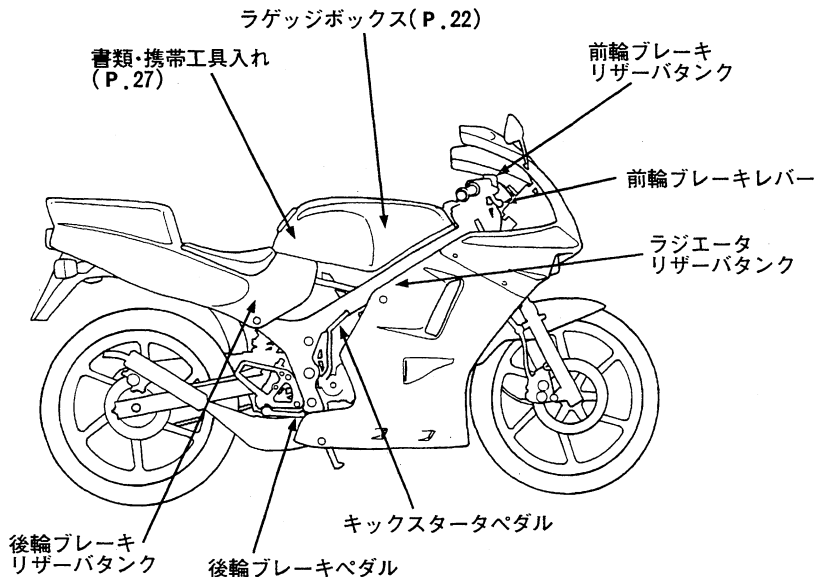
- ウィンドスクリーン、フェアリング等は傷がつきやすいので、清掃するときは多量の水を使って、やわらかい布かスポンジで汚れを落してください。
- 汚れのひどい時は、中性洗剤を使用してください。
- フェアリングと車体との間に物を置かないでください。ハンドル操作に悪影響があります。

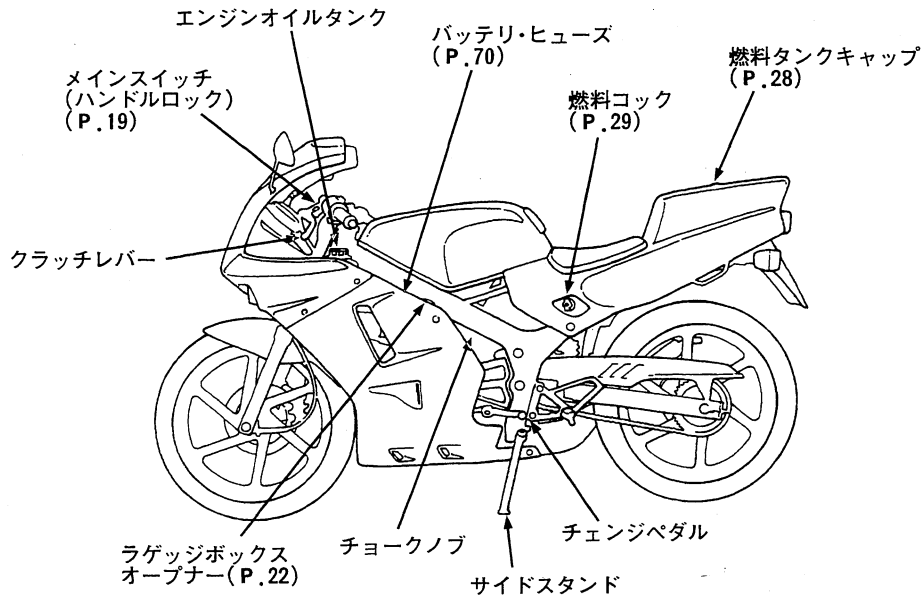


- ガソリン、ブレーキ液または洗浄液等の化学物質がメータ、ウィンドスクリーン、フェアリング、サイドカバー等の樹脂部品にかかると、亀裂などが発生しますので、絶対にかからないようにしてください。
- ウィンドスクリーンにシール類を貼るとスクリーンを汚損しますので、シール類を貼らないでください。
- ウィンドスクリーンに貼付されているコーションラベルは、はがさないでください。



各部の名称





メータの見かた、使いかた

計器類

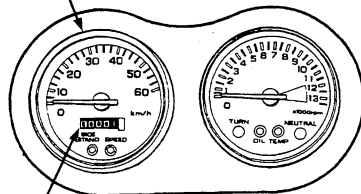
速度計(スピードメータ)

走行中の速度を示します。法定速度を守り安全走行してください。

積算距離計(オドメータ)

走行した総距離をkmの単位で示します。
白地に黒数字は100mの単位です。

速度計
(スピードメータ)



積算距離計
(オドメータ)

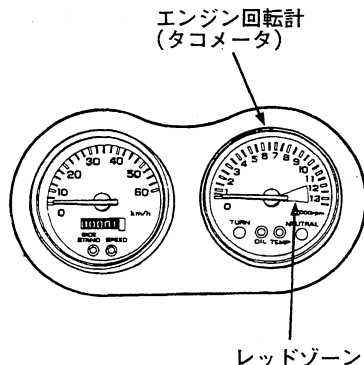
エンジン回転計(タコメータ)

エンジンの回転数を示します。

注意

- 慣らし走行後もエンジン回転は、レッドゾーンに入らないように注意し走行してください。
- 空吹きし及び1速2速ギヤ位置での急加速はレッドゾーンに入りやすいので特に注意してください。

レッドゾーンとはエンジンの限界回転域を示したものでレッドゾーン以上で使用するとエンジン回転が不円滑になりエンジン寿命に悪影響を与えます。



警告灯・表示灯

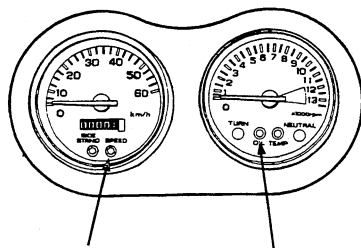
速度警告灯

速度が30 km/h を越えると、点滅します。

オイル警告灯

オイルタンク内のオイルが少なくなると点灯します。点灯したら、ホンダウルトラ2 スーパーを補給してください。

エンジンオイルの補給は、74 ページ参照。



速度警告灯

オイル警告灯

注意

- 数秒たってもオイル警告灯が消えない場合は、オイルが少なくなっています。早めに推奨オイルを補給してください。

水温警告灯

メインスイッチのキーが“ON”のとき、エンジン冷却水の温度が規定温度以上になると点灯します。走行中に水温警告灯が点灯したら、すみやかに安全な場所に停車し、エンジンを止めてリザーバタンクの液量を点検してください。

リザーバタンクの液量点検は、 48 ページ参照。

注意

- 高温下での長時間にわたるアイドリングにより警告灯が点灯する場合があります。この場合は、走行してエンジンを冷やすか、またはエンジンが冷えるまで停止してください。

方向指示器表示灯

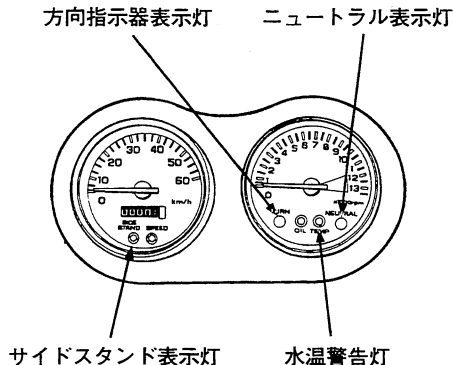
方向指示器が点滅しているときに点滅します。

ニュートラル表示灯

メインスイッチのキーが“ON”の位置にありチェンジがニュートラルの位置にあるとき点灯します。

サイドスタンド表示灯

メインスイッチのキーが“ON”の位置にありサイドスタンドが使用状態のとき点灯します。

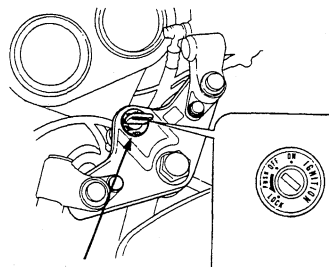


スイッチの使いかた

メインスイッチ

メインスイッチは電気回路の断続を行います。

キーの位置	作用	キーの脱着
O N	始動・昼夜間走行 警音器(ホーン)・方向指示器・制動灯(ストップランプ)・前照灯(ヘッドライト)などが使える	抜けない
OFF	停止 (電気回路を全部遮断する)	抜ける
LOCK	ハンドルのロックができる (電気回路を全部遮断する)	抜ける



メインスイッチ

注意

- 走行中はメインスイッチのキーを操作しないでください。
メインスイッチのキーを“OFF”や“LOCK”の位置にすると電気系統は作動しません。走行中にメインスイッチのキーを操作すると思わぬ事故につながるおそれがありますので必ず停車してから操作してください。
- 車をはなれるときは、キーを必ず抜いてお持ちください。

前照灯(ヘッドライト)

《ライトのつけかた》

メインスイッチのキーを“ON”にし、エンジンをかけて、前照灯スイッチ(ライティングスイッチ)で行います。

スイッチの位置	作 用
H	前照灯(ヘッドライト)・尾灯(テールランプ)点灯
●	消 灯

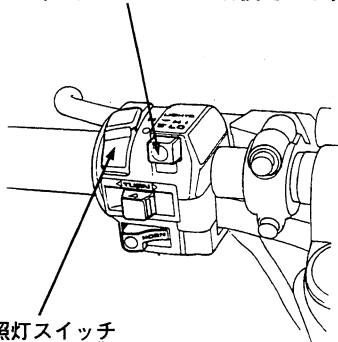
- 夜間のみならず、昼間走行時も前照灯(ヘッドライト)を点灯して、他の車や歩行者へ注意をうながし、自車の存在を知らせましょう。
- 昼間の前照灯(ヘッドライト)点灯は、下向き(ロービーム)に点灯しましょう。

《前照灯(ヘッドライト)の上下切換え》

前照灯上下切換えスイッチを押して行います。

H I 前照灯(ヘッドライト)が上向き
L O 前照灯(ヘッドライト)が下向き

前照灯上下切換えスイッチ
(ヘッドライト上下切換えスイッチ)



前照灯スイッチ
(ライティングスイッチ)

方向指示器スイッチ

右左折する時や、進路変更する場合には方向指示器で合図します。

《使いかた》

メインスイッチのキーを“ON”にしてスイッチを入れると、方向指示器が作動します。

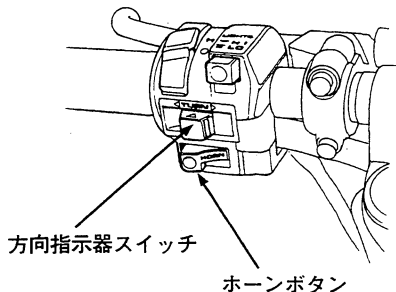
解除は、方向指示器スイッチを押して行います。

注意

- 電球(バルブ)は、正規のワット数以外のものを使用しますと、方向指示器が正常に作動しなくなります。必ず正規のワット数のものを使用してください。
- スイッチは、自動的にもとに戻りません。使い終わったら必ずもとに戻してください。戻し忘れると他の方の迷惑となります。

ホーンボタン

メインスイッチが“ON”のとき、警音器ボタン(ホーンボタン)を押すと警音器(ホーン)が鳴ります。



装備の使いかた

ラゲッジボックス

《開けた》

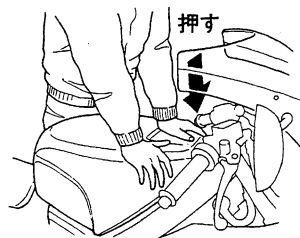
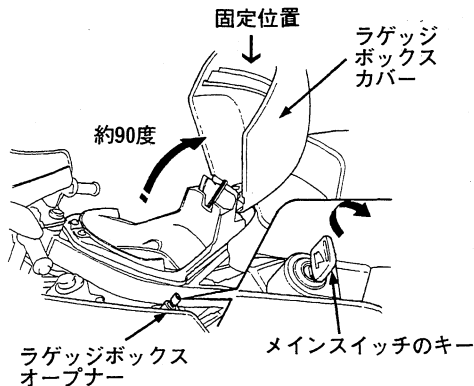
1. メインスイッチのキーをラゲッジボックスオープナーに差し込み、右に回してロックを解除します。
2. ラゲッジボックスカバーを固定位置(約90度)まで開けます。

注意

- ラゲッジボックスカバーは、固定位置以上には開けないで下さい。

《閉じた》

1. ラゲッジボックスカバーを閉めて前部を押し確実にロックします。
2. ラゲッジボックスカバーの前部を軽く持ち上げてロックがかかっていることを確認してから、キーを抜きます。



注意

- ボックス内への荷物の積載は10k g です。
- ボックス内はエンジンの熱等で温度が高くなります。熱の影響を受け易い用品、食料品または可燃性のものは入れないでください。
- 貴重品やこわれ易いものは入れないでください。
- ラゲッジボックスカバーは確実にロックしてください。
ロックをかけないで走行すると、走行に支障をきたすことがあります。
- 洗車時等、内部に水が入ることがあります。
大切なものを入れる場合はご注意ください。
- ヘルメットは大きさ、形状により入らないものがあります。

ハンドルロック

盗難予防のため、駐車するときは必ずハンドルロックをかけましょう。

チェーンロック等のご使用もおすすめします。

《かけかた》

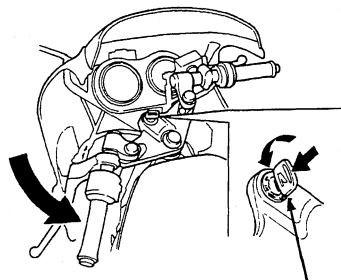
1. ハンドルを左または右にいっぱいに切ります。
2. メインスイッチにキーを差し込みます。
3. キーを押し込みながら、“LOCK”の位置まで回します。
4. キーを抜きます。

《外しかた》

- かけかたの逆の要領で行います。

注意

- ハンドルが確実にロックされているか、ハンドルを軽く左右に動かして確認してください。
- 交通のじゃまにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。



メインスイッチのキー

注意

- 走行前は、ハンドルを左右に切って切れ角が左右均等であることを確認してください。

ロアフェアリング

《取外しかた》

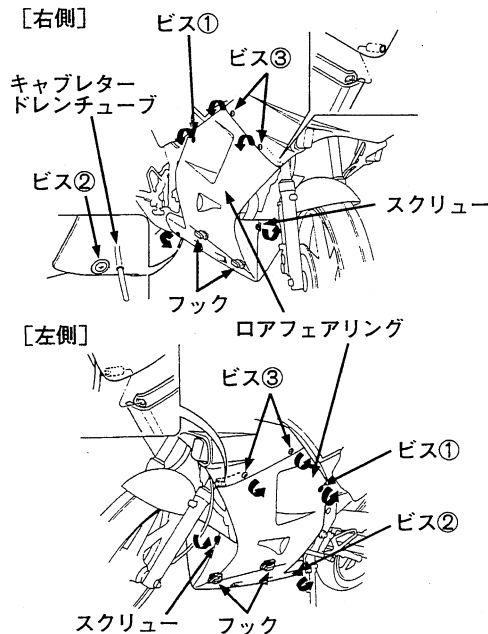
1. ビス①、②を取外します。
2. スクリューを取外します。
3. ロアフェアリングを押えながら、ビス③を取外します。
4. ロアフェアリングをずらし、フックを外して取外します。

《取付けかた》

1. ロアフェアリングのフックを確実にセットします。
2. アップパーフェアリングとの合わせ目を調整してからビス③を仮付けし、スクリューを締め付けます。
3. ビス①、②を仮付けします。
4. 合わせ目を調整しながらビスを締め付けます。
(右側ロアフェアリングは、キャブレタードレンチューブを差し込んで下さい。)

注意

- エンジン停止直後は、エンジンなどが熱くなっています。火傷にご注意ください。



リヤカウル

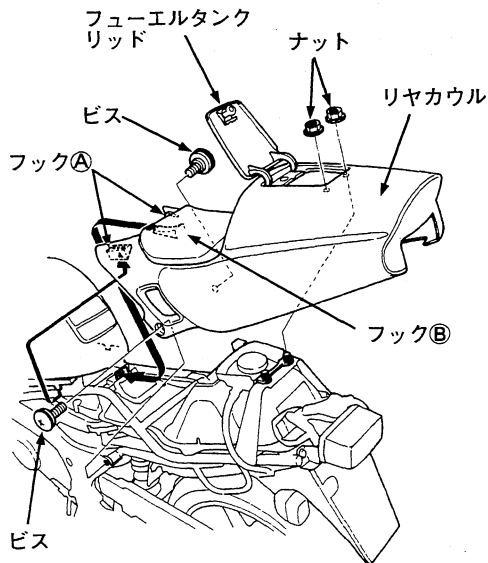
リヤカウルは、左右サイドカバー、シートと一体になっています。取外し、取付けは、次の要領で行ってください。

《取外しかた》

1. フューエルタンクリッドを開けます。(28ページ参照)
2. ナット、ビスを取外します。
3. フック①をリヤカウルを下方にずらして外します。
4. リヤカウルの後部を上に上げながら後方にずらし、フック②を外します。
5. リヤカウルを取外します。

《取付けかた》

- 取付けは、取外しの逆手順で行います。

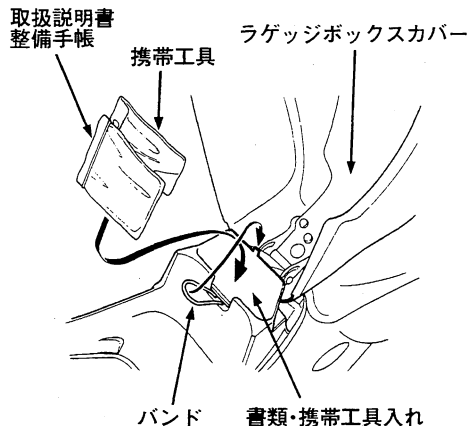


書類・携帯工具入れ

ラゲッジボックスカバーを開けると書類入れ、携帯工具入れがあります。

取扱説明書・整備手帳は、ここに保管してください。
又、携帯工具も、ここに確実に格納してください。
携帯工具は、工具入れに格納し、バンドでしっかりと固定してください。

- ラゲッジボックスカバーの開閉は、22 ページを参照してください。

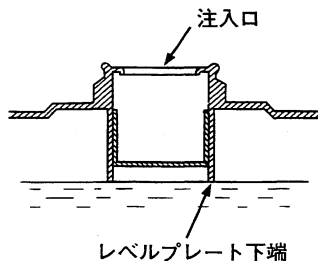
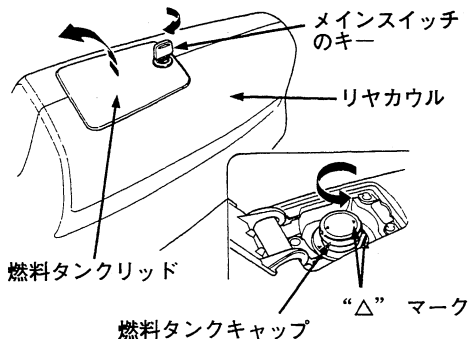


ガソリンの補給

- メインスイッチのキーを差し込み、右に回して燃料タンクリッドを開けます。
- 燃料タンクキャップを左に回して開けます。
- ガソリンは注入口の下側にあるレベルプレート下端まで入れます。(無鉛ガソリン)
- 燃料タンクキャップは右に回すとしまります。タンクキャップの“△”マークとキャップ下の“△”マークが合うところまで確実に回してください。
- 燃料タンクリッドを閉じ、メインスイッチのキーを左に回して抜いて下さい。

注意

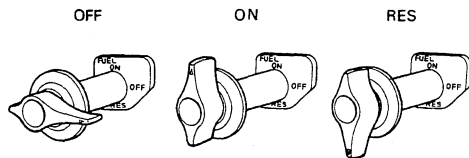
- 補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。
- ガソリンをレベルプレート下端以上に入れると燃料タンクキャップのブリーザ孔からガソリンがにじみ出ることがあります。
- 燃料タンクキャップは、確実にしめてください。



燃料コック

燃料コックレバーの矢印がそのときの位置を示します。

- ON** … キャブレータにガソリンが流れます。エンジンを始動するときはこの位置にします。
- OFF** … キャブレータにガソリンが流れません。乗車するとき以外は、この位置にします。
- RES** … 予備燃料です。“ON”で走行中燃料がなくなったらこの位置にします。早めにガソリンを補給してください。補給後は“ON”に戻してください。戻し忘れると、走行中に予備燃料がなくなり走行できなくなります。
- 予備燃料容量: 約 1.0 ℓ



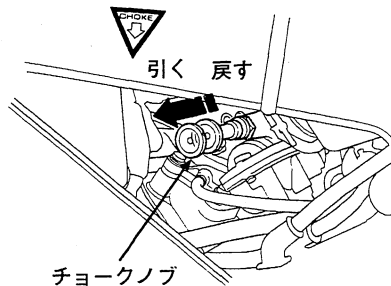
正しい運転操作

エンジンのかけかた

- エンジンが冷えているとき
1. 燃料コックレバーが“ON”になっていることを確認します。
 2. メインスイッチを“ON”にします。
 3. チェンジをニュートラルにします。(ニュートラル表示灯で確認してください。)
 4. チョークノブをいっぱいに引きます。
 5. スロットルグリップを回さずに(完全に戻した状態)、キックスタータペダルを力強くキックします。
 6. エンジンがかかったら、回転がスムーズになるまで暖機運転し(普通30秒ぐらい、特に寒いときは2～3分間ぐらい。)、チョークノブを完全に戻します。
 7. キックスタータペダル及び、サイドスタンドが確実に格納してあることを確認してからスタートしてください。

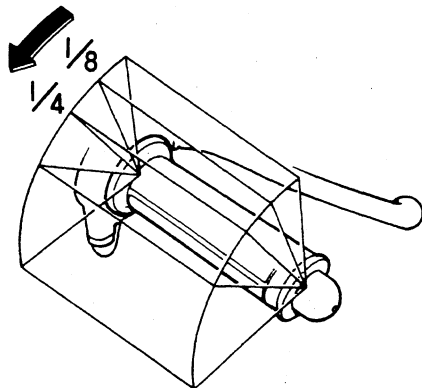
※ この車には、サイドスタンドを出したままチェンジを入れると、自動的にエンジンが停止するイグニッションカットオフ式サイドスタンドを採用しています。スタートする前に、必ずサイドスタンドを格納してください。

- エンジンがかからないときは、82 ページ記載の要領で確認してください。



- エンジンが暖まっているとき
1. 燃料コックレバーが“ON”になっていることを確認します。
 2. メインスイッチを“ON”にします。
 3. チェンジをニュートラルにします。(ニュートラル表示灯で確認してください。)
 チョークノブを使用する必要はありません。
 4. スロットルグリップを $1/8$ から $1/4$ ほど回し、キックスタータペダルを力強くキックします。通常の場合これでエンジンがかかります。
 5. キックスタータペダル及び、サイドスタンドが確実に格納してあることを確認してからスタートしてください。

※ この車には、サイドスタンドを出したままチェンジを入れると、自動的にエンジンが停止するイグニッションカットオフ式サイドスタンドを採用しています。スタートする前に、必ずサイドスタンドを格納してください。



- エンジンがかからないときは、82 ページ記載の要領で確認してください。

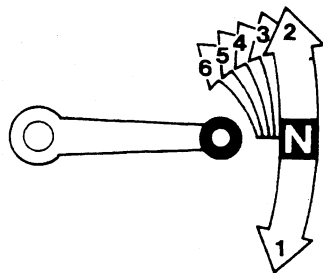
注意

- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。エンジンは、風通しの良い場所でかけてください。
- チェンジが入った状態で、クラッチを切らないでキックすると、飛び出しや転倒することがあります。必ずニュートラルを確認するか又はクラッチを切ってから始動してください。
- 無用の空ふかしはしないでください。ガソリンの無駄使いになるばかりでなく、エンジンに悪影響を与えます。
- 交差点などで停車しているとき、スナッピングはしないでください。周囲の迷惑になるばかりでなく、プラグかぶりがおこりエンジンがストップすることがあります。

チェンジのしかた

チェンジは、右図のような6段リターン式です。

- 変速は、スロットルグリップを一旦戻して、クラッチレバーを完全に握ってから行います。
- 軽くつま先で行い、ペダルにコツンと足ごたえのあるまで確実に操作してください。無理をすると、チェンジ機構を痛める原因となります。



走りかた

- 走行前に、サイドスタンドは完全に納まっているか確認してください。
- サイドスタンドの動きがスムーズでないときは、サイドスタンド取付部の給油脂状態を確認してください。(65 ページ参照)
- 車のスピードに応じてギヤを切換えることが必要です。右表は、その速度範囲を示したものです。
- 不必要な急加減速をつつしんで走ることが、燃料の節約と車の寿命をのばします。

注意

- 発進は、できるだけ静かに行いましょう。
- 走行中に異音や異常を感じたときは、ただちにホンダ販売店で調べましょう。
- 法定速度を守って走りましょう。

《慣らし運転》

最初の1,000km走行するまでは、エンジン回転を6,000回転以下で慣らし走行してください。慣らし運転を行うと、車の寿命をのばします。

	速 度 範 囲		
1 速	0	～	20 km/h
2 速	10	～	35 km/h
3 速	15	～	55 km/h
4 速	20	～	60 km/h
5 速	25	～	60 km/h
6 速	30	～	60 km/h

《シフトダウンのしかた》

追い越しするときなど、強力な加速が必要なときは、シフトダウンをすると加速力が得られます。あまり高い速度で行うと、エンジンの回転が上がすぎて、エンジン、ミッションに悪影響を与えます。右表の速度内で行ってください。

	シフトダウン可能限界速度
6 速→5 速	60 km/h 以下
5 速→4 速	50 km/h 以下
4 速→3 速	45 km/h 以下
3 速→2 速	35 km/h 以下
2 速→1 速	20 km/h 以下

ブレーキの使いかた

- ブレーキは、前後輪を同時に使いましょう。
- 不必要な急ブレーキは避けましょう。

注意

- 前輪ブレーキまたは後輪ブレーキのどちらか一方のブレーキのみを使うと、車が横すべりして転倒するおそれがあります。
- 雨天走行や路面が濡れている場合、急激なブレーキをかけるとタイヤがスリップして転倒の原因になることがあります。スピードを落として、余裕をもったブレーキ操作をしてください。
- 連続的なブレーキ操作は、ブレーキ部の温度上昇の原因となり、ブレーキの効きが悪くなるおそれがありますので避けてください。
- 水たまりを走行した後や雨天走行時には、ブレーキの効き具合が悪くなる場合があります。水たまりを走行した後などは、安全な場所

で周囲の交通事情に十分注意し、低速で走行しながらブレーキを軽く作動させて、ブレーキの効き具合を確認してください。もし、ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキのしめりを乾かしてください。

《エンジンブレーキ》

スロットルグリップをもどすとエンジンブレーキがききますが、さらに強力なブレーキを必要とするときは5速、4速……とシフトダウンを行ってください。

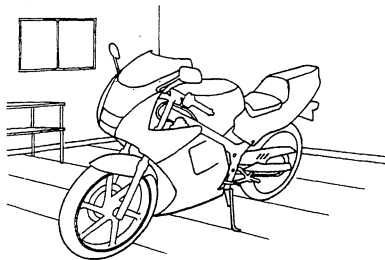
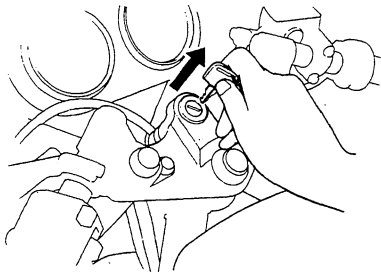
長い下り坂、急な下り坂などでは、断続的なブレーキ操作とエンジンブレーキを併用してください。

注意

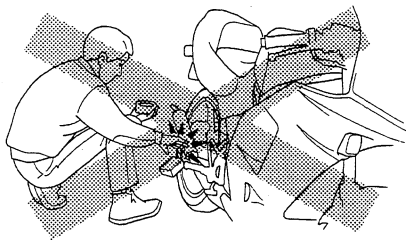
- 急激なシフトダウンは、尻振りなどの原因となります。35 ページの表にしたがって行ってください。

点検、整備を安全に行うために

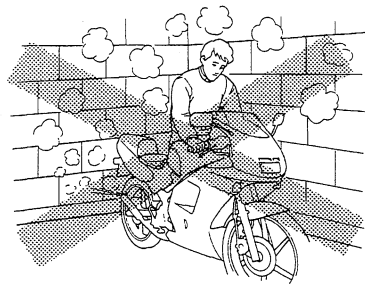
- 整備はエンジンを停止しキーを抜いた状態で行ってください。
- 場所は、平坦地で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。



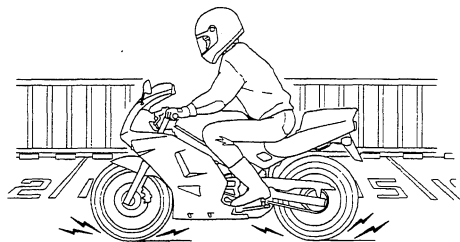
- エンジン停止直後の点検・整備は、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。火傷にご注意ください。



- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や、風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。



-
- 走行して点検する必要があるときは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意して行ってください。



純正部品

あなたのお車に最適なホンダ純正部品をご使用ください。

純正部品は、厳しい検査を実施し、ホンダ車に適合するように作られています。

ホンダ販売店で求められます。

純正部品には、つぎのマークがついています。



または、



運行前点検・定期点検

お車をご使用のかたの安全と車の事故を未然に防ぐため、道路運送車両法に準じて、1日1回の**運行前点検**と**6・12か月ごとの定期点検**を設けてあります。必ず実施してください。

点検項目の詳細は、別冊「**整備手帳**」をご覧ください。

なお、お車を長期間お乗りにならないときでも定期点検整備を実施してください。

初回1か月目(又は1000km)の点検は、お買いあげのホンダ販売店が無料でお受けします(但し他店では有料となります)。

点検整備数値は、85 ページのサービスデータをご参照ください。

異常が認められた場合は、ご使用のかたご自身またはホンダ販売店で必ず整備をしてください。

運行前点検

運行前点検は、車を使用する人が、1日1回運転する前に実施する点検です。

- 前日の異状箇所
- ブレーキペダルの踏みしろ、きき具合
- ブレーキリザーバタンクの液量
- タイヤの空気圧、亀裂、損傷、異状な摩耗、金属片、石などの異物
- タイヤの溝の深さ
- エンジンオイル量
- 燃料の量
- 冷却水量
- 冷却装置の水漏れ
- 灯火装置、方向指示器
- 後写鏡(バックミラー)の写影
- 自動車登録番号標の汚れ、損傷
- 反射器の汚れ、損傷

注意事項

点検するときは、安全に十分注意してください。

- 場所は、平坦地で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- エンジン停止直後の点検は、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。火傷にご注意ください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や、風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。

前日の異状箇所の点検

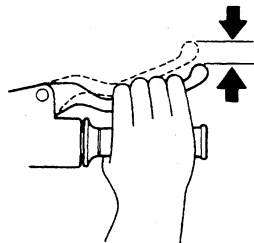
運行に支障がないかを点検します。

ブレーキの点検

《ブレーキペダルの踏みしろ、きき具合》

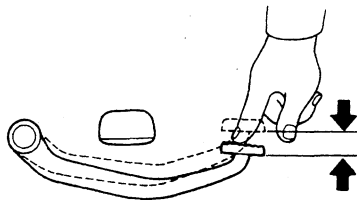
●ブレーキレバーの遊び

抵抗を感じるまで、手でブレーキレバーを引き、レバー先端の遊びが適当であるかを点検します。
ブレーキレバーを強く引いたとき、やわらかくふわふわする感じの場合は異常です。



●ブレーキペダルの遊び

抵抗を感じるまで、手でブレーキペダルを押し、ペダル先端の遊びが適当であるかを点検します。
ブレーキペダルを強く押したとき、やわらかくふわふわする感じの場合は異常です。



《ブレーキリザーバタンク液量の点検》

〔前輪〕

平坦地でスタンドを立て、ハンドルを動かし、リザーバタンクキャップ上面を水平にして点検します。液面が下限(L O W E R)以上にあるかを点検してください。

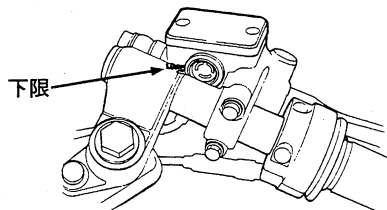
〔後輪〕

平坦地で車体を垂直にして、ブレーキ液面がレベルラインに平行な状態で点検します。液面が上限と下限の間にあるかを点検してください。リヤカウルの点検窓から点検します。ブレーキ液の補給は 67 ページ参照。

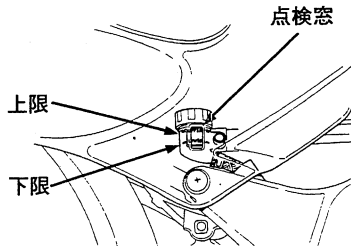
万一、液の減り方が著しい場合は、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。ブレーキホース、パイプの液漏れの点検をしてください。

ブレーキ液漏れの点検は、53 ページ参照。

〔前輪〕



〔後輪〕

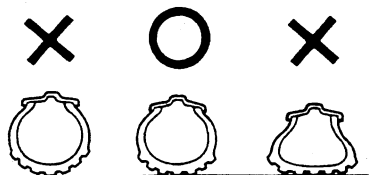


タイヤの点検

《空気圧の点検》

タイヤの接地部のたわみ状態を見て、空気圧が適当であるかを点検します。

タイヤ接地部のたわみ状態が異常な場合は、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。



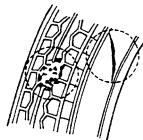
《亀裂・損傷》

タイヤの接地面や側面に、著しい亀裂や損傷がないかを点検します。

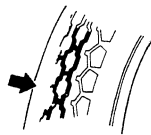
《異状な摩耗》

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

亀裂・損傷



異状な摩耗



《金属片、石などの異物》

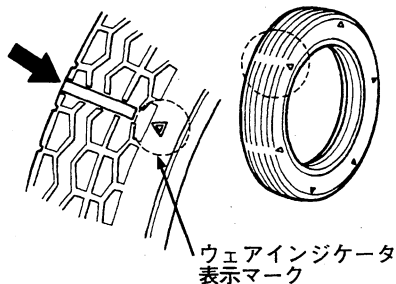
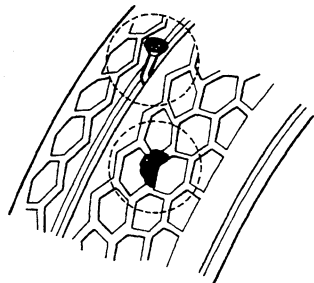
タイヤの接地面や側面に、釘や石などがささったり、かみ込んだりしていないかを点検します。

《溝の深さ》

- 溝の深さに不足がないかをウェアインジケータ（摩耗限度表示）により点検します。
- ウェアインジケータがあらわれたときは、使用限度ですのでただちにタイヤを交換してください。

注意

- 空気圧が正常でなかったり、タイヤに亀裂損傷や異常摩耗があるとハンドルをとられたり、パンクの原因になります。



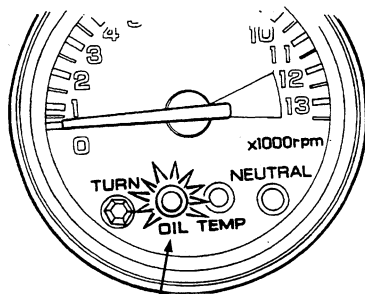
エンジンオイル量の点検

エンジンを始動し、オイル警告灯が点灯しつづけないかを点検します。

オイル警告灯が点灯したままなら、オイルが少なくなっていますので、オイルを補給してください。エンジンオイルの補給は、74 ページ参照。

注意

- オイルは切らさないでください。オイル警告灯が点灯したまま走行するとオイルが切れエンジンがこわれます。



オイル警告灯

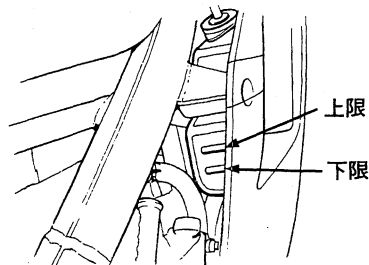
燃料の量の点検

ガソリンが目的地まで走行するのに十分な量であるかを点検します。

冷却装置の点検

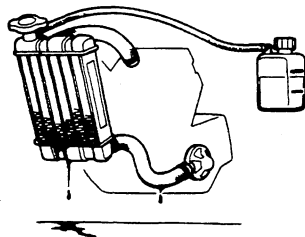
《冷却水量》

- 平坦地で車体を垂直にします。
- 冷却水量がリザーバタンクの上限と下限の間にあるかを点検します。水量が下限に近かったら、上限まで冷却水を補給してください。
冷却水の補給は、77 ページ参照。



《冷却装置の水漏れ》

- ラジエータ、ラジエータホースなどから水漏れがないかを点検します。
また車をとめておいた地面に、水が漏れたあとがないかを点検してください。



灯火装置、方向指示器の点検

《点滅具合、汚れ、損傷》

前照灯(ヘッドライト)、尾灯(テールランプ)/制動灯(ストップランプ)、方向指示器のスイッチを作動させて、点灯または点滅するかを点検します。このとき、レンズに汚れや損傷がないかを点検します。

後写鏡(バックミラー)の写影の点検

シートに座って、正しい運転姿勢をとったとき、後方が後写鏡に正しく写るかを確認し、点検します。

自動車番号標(ナンバープレート)の汚れ、損傷の点検

自動車登録番号標に汚れや損傷がないかを点検します。また、確実に取付いているか手でさわって確認し、点検します。

反射器の汚れ、損傷の点検

反射器に汚れ、損傷がないかを点検します。

6 か月点検

定期点検は、車を使用する人が定期的に行う点検で、6 か月点検と12か月点検の2種類があります。

- 6 か月点検項目には、④と⑤の項目があります。別冊「整備手帳」の点検整備方式の一覧表を参照してください。ここでは④の項目とメーカー推奨項目の一部を選んで点検要領を説明してあります。

④……点検を行うに当たって、車の構造、装置に関する基礎的な技術知識を有する人であれば、自らでも実施可能なもの。

⑤……点検を行うに当たって、専門的な技術知識を必要とするもの、専門的な機械、工具や測定器具を必要とするもの、装置または部品の分解、取外しを伴うもの。

- 点検結果は、所定の記録用紙に記録してください。ご自身でできない項目については、ホンダ販売店で点検を受け記録してください。

- 点検結果の記録用紙は、別冊整備手帳に綴られています。なお、記録は1 か年保存するようにしてください。
- メーカー推奨項目の点検結果は、点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

— 注 意 事 項 —

点検するときは、安全に十分注意してください。

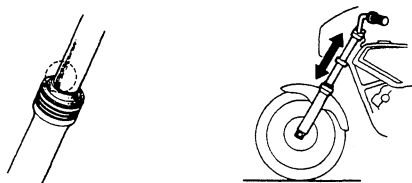
- 場所は、平坦地で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- エンジン停止直後の点検は、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。火傷にご注意ください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や、風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。
- 走行して点検する必要があるときは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意して行ってください。

かじ取りホーク(フロントホーク)の点検

《損傷》

かじ取りホークに損傷がないか目視により点検します。

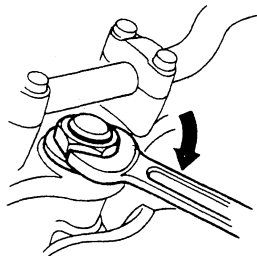
また、ハンドルを上下に動かし、かじ取りホークの曲りによる異音がないかを点検します。



《ホークスピンドル(ステアリングステム)の取付け状態》

ホークスピンドルの締付けナットにゆるみがないかをスパナなどの工具により点検します。

工具で点検できない場合は、ハンドルまたはかじ取りホークを上下、前後方向に動かし、がたがないかを点検します。



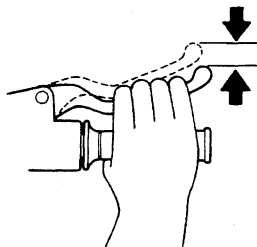
ブレーキの点検

《ブレーキペダルの遊び》

●ブレーキレバーの遊び

抵抗を感じるまで、手でブレーキレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあるかをスケールなどで点検します。

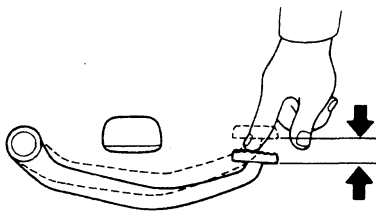
ブレーキレバーを強く引いたとき、やわらかくふわふわする感じの場合は異常です。



●後輪ブレーキペダルの遊び

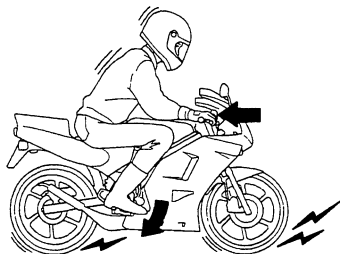
抵抗を感じるまで、手でブレーキペダルを押し、ペダル先端の遊びの量が規定の範囲内にあるかをスケールなどで点検します。

ブレーキペダルを強く押したとき、やわらかくふわふわする感じの場合は異常です。



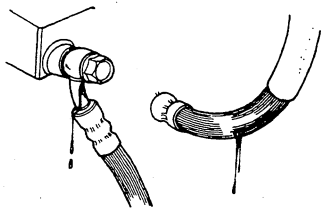
《ブレーキのきき具合》

乾燥した路面で、低速走行して前輪ブレーキ、後輪ブレーキを別々に作動させ、きき具合が十分であるかを点検します。



《ブレーキホース、パイプの漏れ、損傷、取付け状態》

液漏れ、損傷がないかを目視などにより点検し、接続部、クランプに緩みがないかをスパナなどの工具で点検します。また、ハンドルを左右に切ったときや、走行中の振動でホース、パイプの保護部以外が、他の部品と接触するおそれがないかを点検します。



《ブレーキリザーバタンク液量の点検》

〔前輪〕

平坦地でスタンドを立て、ハンドルを動かし、リザーバタンクキャップ上面を水平にして点検します。液面が下限(L O W E R)以上にあるかを点検してください。

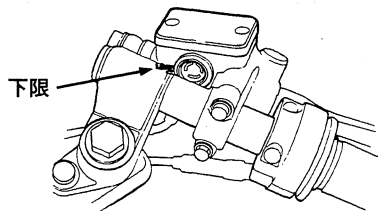
〔後輪〕

平坦地で車体を垂直にして、ブレーキ液面がレベルラインに平行な状態で点検します。液面が上限と下限の間にあるかを点検してください。右リヤカウルの点検窓から点検します。ブレーキ液の補給は 67 ページ参照。

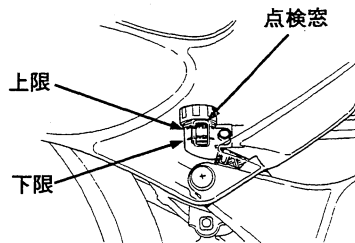
万一、液の減り方が著しい場合は、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。ブレーキホース、パイプの液漏れの点検をしてください。

ブレーキ液漏れの点検は、53 ページ参照。

〔前輪〕



〔後輪〕



《ブレーキパッドの点検》(メーカー推奨項目)

ブレーキを作動させ、ブレーキパッドの摩耗を点検します。

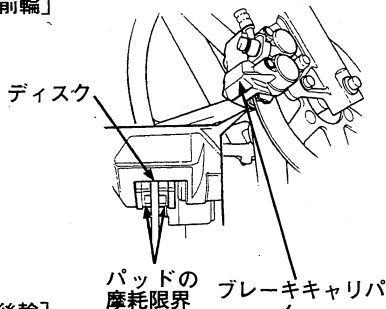
[前輪]

ブレーキキャリパの下側からのぞいて、パッドの摩耗限界溝がブレーキディスクの側面に達したら、パッドの摩耗限界です。

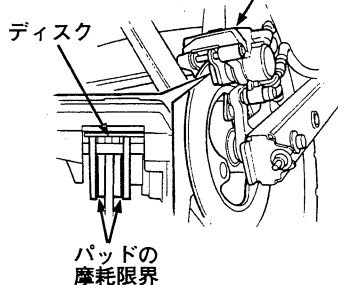
[後輪]

ブレーキキャリパの後側からのぞいて、パッドの摩耗限界溝がブレーキディスクの側面に達したら、パッドの摩耗限界です。

[前輪]



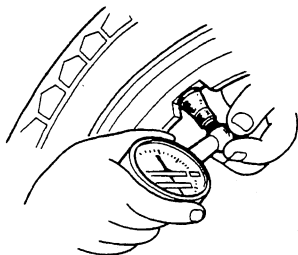
[後輪]



タイヤの点検

《タイヤの空気圧》

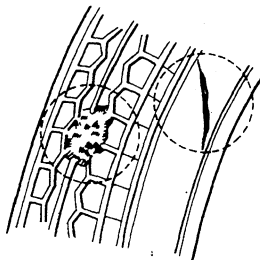
タイヤの空気圧をタイヤゲージで点検します。
空気圧は、タイヤが冷えているときに測定してください。



亀裂・損傷

《亀裂と損傷》

タイヤの接地面や側面に亀裂や損傷がないかを目視により点検します。



《溝の深さと異状な摩耗》

- 溝の深さに不足がないかをウェアインジケータ（摩耗限度表示）により点検します。
- ウェアインジケータがあらわれたときは、使用限度ですのでただちにタイヤを交換してください。
- タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

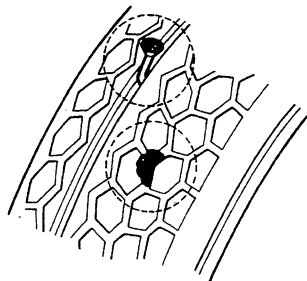
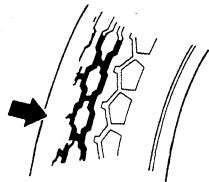
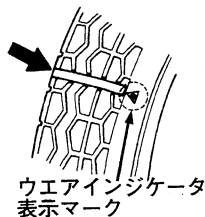
《金属片、石などの異物》

タイヤの接地面や側面に、釘や石などがささったり、かみ込んだりしていないかを点検します。

注意

- 空気圧が正常でなかったり、タイヤに亀裂損傷や異常摩耗があるとハンドルをとられたり、パンクの原因になります。

異状な摩耗



バッテリー液量の点検

この車には、密閉式のメンテナンスフリーバッテリーが装備されております。バッテリー液の点検、補給は不要です。異常が認められた場合は、ホンダ販売店で整備してください。

注意

- 密閉式バッテリーですので、液口キャップは絶対に取外さないでください。
- 長期間使用しない場合は、自己放電と電気もれを少なくするため、車からバッテリーを降ろし完全補充電して風通しのよい暗い場所に保存してください。もし車に積んだまま保存する場合は、⊖側ターミナルを外してください。

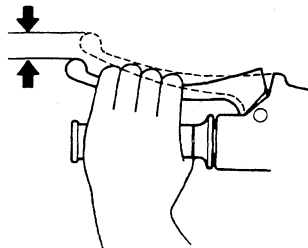
クラッチの点検

《レバーの遊び》

抵抗を感じるまで、手でクラッチレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあるかをスケールなどで点検します。

《クラッチの作用》

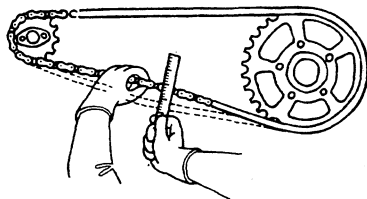
- アイドリング状態で、クラッチレバーをいっばいに引いたとき異音がしないか、異常に重くないかを点検します。
- クラッチレバーを徐々に離して発進したとき滑りがなく、接続が滑らかであることを点検します。



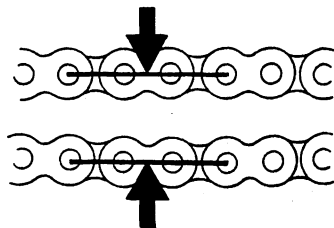
ドライブチェーンの点検

《ドライブチェーンのたるみ》

- スタンドを立て前後スプロケットの中央を手で上下に動かし、チェーンのたるみが規定の範囲内にあるかをスケールなどで点検します。
また、車体を垂直にし、車体を前後に動かしてチェーンが滑らかに回転するかを点検します。チェーンの回転が滑らかでない場合や、異音が出る場合は異常です。
- チェーンの給油状態を点検します。給油を必要とする場合は、76 ページを参照してください。



ドライブチェーンのたるみ



エンジンオイルの点検

《オイルの量》

エンジンを始動し、オイル警告灯が点灯しつづけないかを点検します。

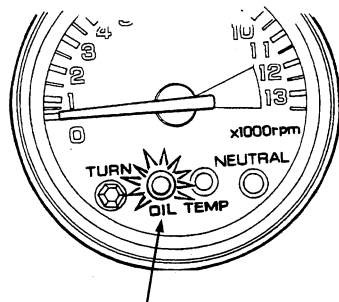
オイル警告灯が点灯したままなら、オイルが少なくなっていますので、オイルを補給してください。エンジンオイルの補給は、74 ページ参照。

注意

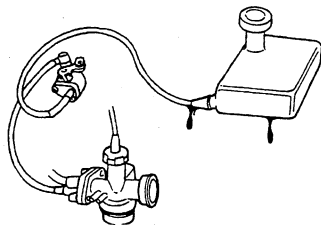
- オイルは切らさないでください。オイル警告灯が点灯したまま走行するとオイルが切れエンジンがこわれます。

《油漏れ》

オイルタンクおよびオイルホースなどから、オイルが漏れていないかを点検します。



オイル警告灯



トランスミッションオイルの点検

《オイルの量》

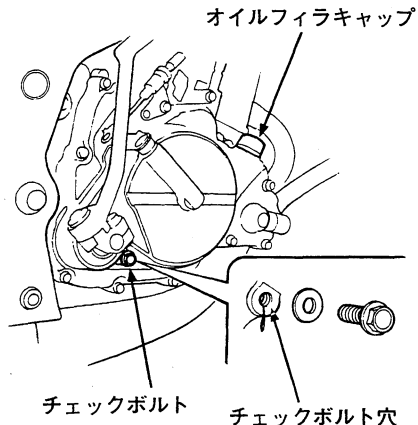
- 平坦地で車体を垂直にして、エンジン停止2～3分後にオイルチェックボルトを外し、ミッションオイル量がチェックボルトの穴まであるかを点検します。
- 油面がチェックボルト穴より低いときは、オイルフィラキャップを外し、チェックボルト穴からオイルが出てくるまで、オイルを補給してください。
- 補給後、オイルフィラキャップとオイルチェックボルトを確実に取付けます。

《推奨オイル》

“ホンダ純正オイルウルトラU(4サイクル二輪車用)”・・・(SAE 10W-30)、“ホンダ純正オイルウルトラGP(4サイクル二輪車用)”・・・(SAE 10W-40, SAE 20W-50)またはAPI SE、S F、SG級のエンジンオイル

《推奨交換時期》

2年ごと

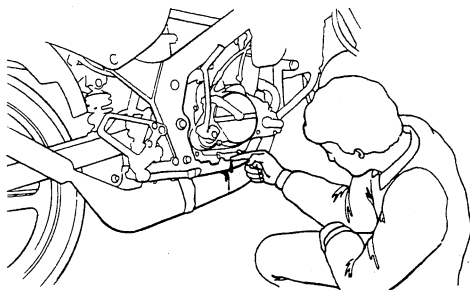


《油漏れ》

クランクケースなどから、オイルが漏れていないかを点検します。

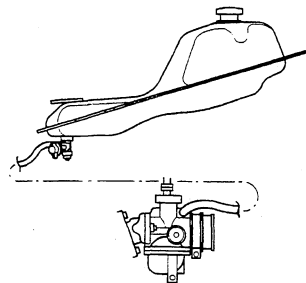
注意

- 補給するときは、オイル注入口からゴミなどが入らないようにしてください。オイルをこぼしたときは、完全にふきとってください。
- オイルは規定量より多くても少なくても、エンジンに悪影響を与えます。
- 銘柄やグレードの違うオイルを混用したり、低品質オイルを使用しないでください。変質して故障の原因になることがあります。



燃料漏れの点検

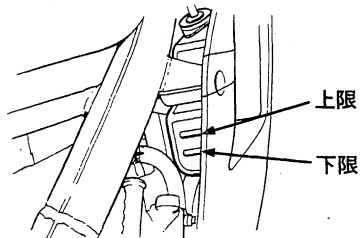
燃料コック、燃料タンク、ホース、パイプ、キャブレターなどからガソリン漏れがないかを点検します。



冷却水量の点検

《冷却水量》

- 平坦地で車体を垂直にします。
- 冷却水量がリザーバタンクの上限と下限の間にあるかを点検します。水量が下限に近かったら、上限まで冷却水を補給してください。冷却水の補給は、77 ページ参照。

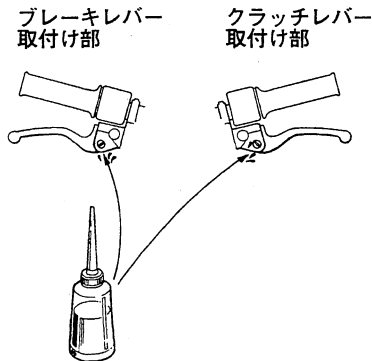


灯火装置、方向指示器の作用の点検

- 前照灯(ヘッドライト)、制動灯(ストップランプ)および尾灯(テールランプ)のスイッチを作動させ点灯具合を点検します。
また前照灯の明るさや、照射方向に異常がないかを壁面にあててなどして点検します。
- 左右の方向指示器を作動させ、毎分60～120回の一定の周期で点滅するかを点検します。
- 前照灯(ヘッドライト)、尾灯(テールランプ)、制動灯(ストップランプ)、方向指示器のレンズに変色、損傷がないか、また、取付けにゆるみがないかを点検します。

シャシ各部の給油脂状態

シャシ各部の給油状態が十分であるかを目視などにより点検します。



簡単な整備

ここでは、点検の結果、清掃、調整、交換などの整備が必要になった場合、通常行われることが多いものの代表例について、その実施方法を説明してあります。

— 注意事項 —

整備するときは、安全に十分注意してください。

- 場所は、平坦地で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- 適切な工具を使用してください。
- 整備はエンジンを停止しキーを抜いた状態で行ってください。
- エンジン停止直後の整備は、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。火傷にご注意ください。

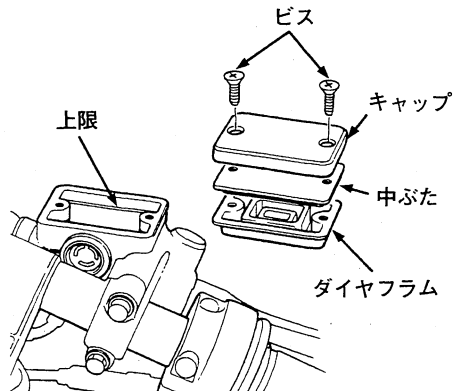
ブレーキ液の補給

〔前輪〕

1. ハンドルを動かし、リザーバタンクキャップ上面を水平にします。
2. リザーバタンク外周のゴミ、汚れをきれいに拭き取り、異物がタンク内に落ちないようにします。
3. ビスを外し、キャップ、中ぶた、ダイヤフラムを取出します。
4. リザーバタンクの上限(UPPER)まで指定ブレーキ液を補給します。
ダイヤフラムの方向性とかみ込みに注意して、ビスでキャップを確実に締付ます。

《指定液》

ホンダブレーキフルードDOT 3またはDOT 4



〔後輪〕

1. リヤカウルをを外します。(26ページ参照)
2. リザーバタンク外周のゴミ、汚れをきれいに拭き取り、異物がタンク内に落ちないようにします。
3. キャップを外し、中ぶた、ダイヤフラムを取外します。
4. リザーバタンクの上限(UPPER)まで指定ブレーキ液を補給します。
5. キャップを確実に締付けます。
6. リヤカウルを取付けます。(26ページ参照)

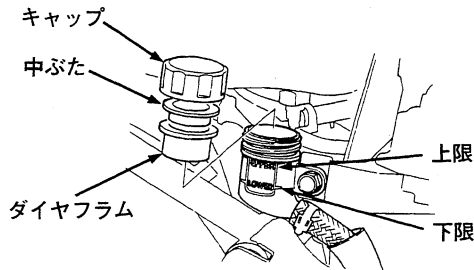
《指定液》

ホンダブレーキフルードDOT 3またはDOT 4

注意

- 上限レベルラインを越えて、ブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液がにじみ出ることがあります。
- ブレーキ液を補給するときは、リザーバタンク内にゴミや水などが混入しないよう十分注意してください。

- ブレーキ液の減り具合が著しいときは、ブレーキシステムの異常です。
- 化学変化を防止するため、銘柄の異なるブレーキ液を使用しないでください。
- ブレーキ液は塗装面をいためるので、部品類に付着させないでください。付着させたら、すぐに拭き取ってください。



クラッチレバーの遊びの調整

クラッチケーブルのクラッチレバー側またはクラッチ側のアジャスタにより遊びを調整します。

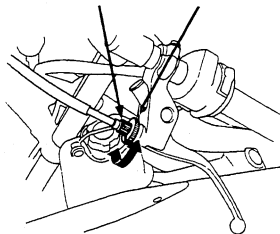
- 主調整は、クラッチ側のロックナットをゆるめ、アジャスタで行います。
- 微調整は、クラッチレバー側のロックナットをゆるめアジャスタを回して行います。
- 調整後、ロックナットを締付けます。

調整後、クラッチレバーを手で抵抗を感じるまで引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあるかをスケールなどで確認します。

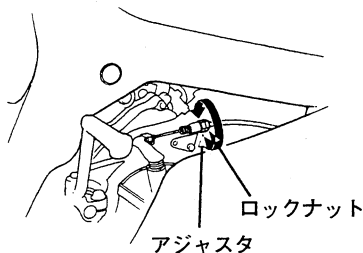
注意

- 調整後、エンジンをかけチェンジ操作がスムーズであるか、エンストまたは飛び出し等がないか確認してください。

《微調整》 アジャスタ ロックナット



《主調整》



バッテリーターミナル部の清掃

ターミナル部に汚れや腐食がある場合は、バッテリーを取外して清掃します。

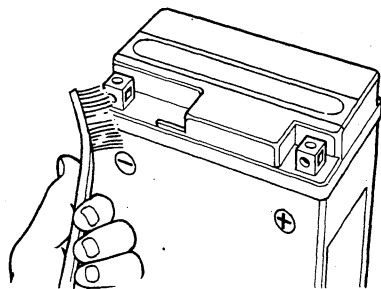
- ターミナル部が腐食して白い粉が付いているときは、ぬるま湯を注いで拭きます。
- ターミナル部の腐食が著しいものは、バッテリーコードを外し、ワイヤブラシまたはサンドペーパーで磨きます。

清掃後、バッテリーコードを取付け、ターミナル部にグリースを薄く塗っておきます。

注意

- ターミナルからバッテリーコードを取外す場合は、メインスイッチを“OFF”にし、必ず⊖側バッテリーコードから外してください。取付けの場合は、⊕側コードを先に取付け、次に⊖側コードを取付けてください。ターミナル部にゆるみが生じないように確実にボルト／ナットを締付けてください。
- バッテリーを取扱うときは火気を近づけないでください。

- バッテリーを交換する場合は、必ずメンテナンスフリーバッテリーをご使用ください。



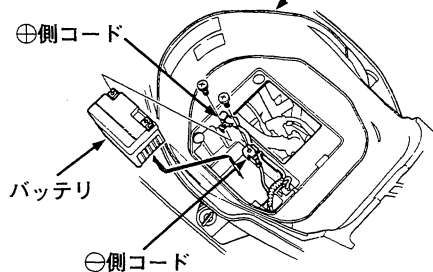
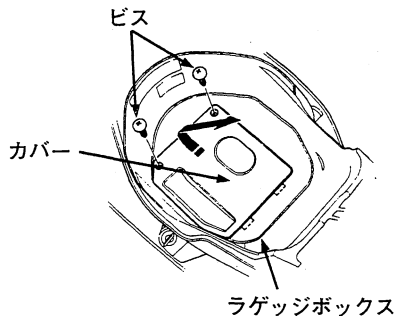
《バッテリーの取付け、取外し》

取外し

1. ラゲッジボックスカバーを開けます。(22 ページ参照)
2. ビスを外し、カバーを外します。
3. ⊖側のボルトを外し、⊖側コードを外します。
4. ⊕側のボルトを外し、⊕側コードを外します。
5. バッテリーを取り出します。

取付け

- 取外しの逆手順でバッテリーを取付けます。

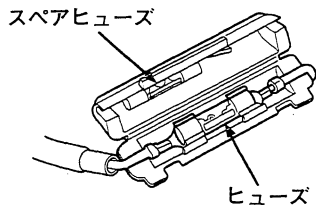
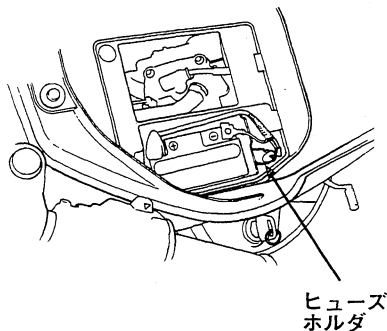


ヒューズの交換

メインスイッチを切り、ヒューズが切れていないかを点検します。

ヒューズが切れている場合は、指定されている容量のヒューズと交換します。

- ヒューズは、バッテリー付近のヒューズホルダにセットされています。
- ヒューズの取外しはヒューズホルダを開け、ヒューズコード両端を持って引き上げ、ヒューズコネクタ部をスライドさせて行ってください。
- 交換してもすぐにヒューズが切れる場合は異常です。



注意

● 取外し時

ホルダをひろげないように注意して取外してください。

● 取付け時

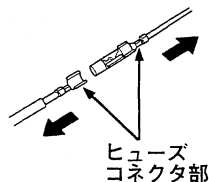
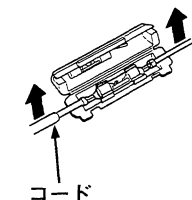
ヒューズが容易に動くが発熱し思わぬ事故を招くことがあります。

- 指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱、焼損の原因になるので絶対に使用しないでください。

- 電装品類(ライト、計器など)を取付けるときは車種毎に決められている「ホンダアクセサリ」をご使用ください。それ以外のものを使用するとヒューズが切れたり、バッテリーあがりをおこすことがあります。

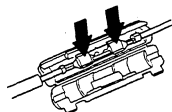
- 洗車時ヒューズホルダのまわりから水を強く吹きつけることは避けてください。

《取外し》



《取付け》

真上から押し込む



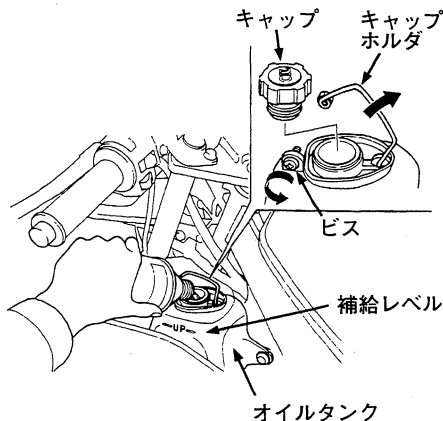
エンジンオイルの補給

オイル警告灯が点灯したら、オイルを補給します。

1. 平坦地でスタンドを立て、エンジンを停止します。
2. ビスを完全にゆるめて、キャップホルダを倒します。
3. オイルタンクキャップをおこすように引き抜きます。
4. オイルを補給レベルまで補給します。
5. オイルタンクキャップを取付けます。
6. キャップホルダをセットし、ビスで締め付けます。

《推奨オイル》

ホンダウルトラ2スーパー



注意

- 推奨オイル、ホンダウルトラ 2 スーパーと他社銘柄オイルとの混用はエンジン不調の原因になりますので避けてください。
- オイル補給後、ゴミ、ホコリなどの混入がないようにご注意ください。
- 補給後、しっかりキャップを取付けてください。
- オイルは補給レベル以上に入れないでください。オイルがにじみ出るおそれがあります。

ドライブチェーンの給油

- 車体を前後に少しづつ動かしてはスタンドを立て、チェーンやスプロケットに付着した泥、汚れをブラシなどで落します。

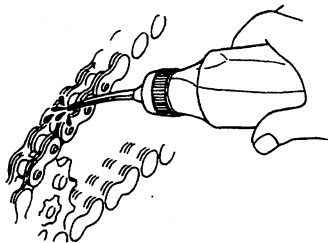
汚れを落した後、給油を行います。オイルがチェーン各部によくゆきわたるようにチェーンローラの両側に給油してください。

《指定オイル》

“ホンダ純正チェーンオイル”またはギヤオイル（#80～#90）

注意

- チェーンにオイルをつけ過ぎると、衣服や車に飛び散り、汚しますのでオイルをつけ過ぎないように注意してください。



冷却水の補給

通常はラジエータキャップを外さないでください。

1. 平坦地で車体を垂直にします。
2. リザーバタンクのキャップを外し、タンクの上限まで冷却水を補給します。

リザーバタンクに冷却水がない場合は、ホンダ販売店で点検整備を行ってください。

《指定液》

指定液 : ホンダ純正ウルトララジエータ液

規定濃度: 30% (寒冷地は50%)

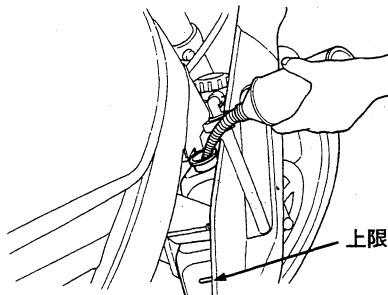
濃度による不凍温度は

30%の場合 -16° C まで

50%の場合 -37° C まで

注意

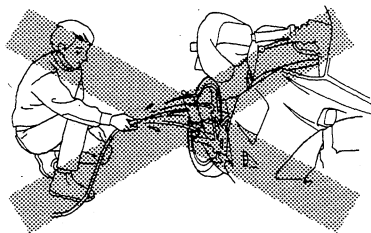
- 冷却水の減り具合が著しいときはラジエータ本体、チューブなどからの漏れが考えられます。ホンダ販売店で点検整備を受けてください。
- ラジエータ液を薄めるときは上水道(軟水)を使用してください。
- 粗悪なラジエータ液を使用するとエンジンの寿命を縮めますので注意してください。



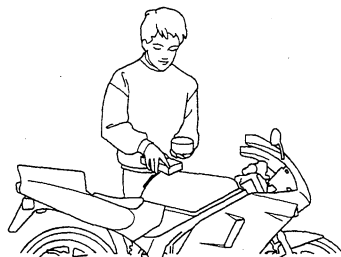
車のお手入れ

- 洗車時、マフラに水を入れないでください。マフラ内部に水がたまると始動不良やサビの発生などの原因になることがあります。
- 洗車時、ブレーキの制動部分に水をかけないようにしてください。水がかかるとブレーキの効き具合が悪くなる場合があります。

洗車後は、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意し、低速で走行しながらブレーキを軽く作動させて、ブレーキの効き具合を確認してください。もし、ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキのしめりを乾かしてください。



- 車にワックスをかけるとき、塗装面及び樹脂部をコンパウンド、ワックスなどで強く磨くと塗膜が薄くなったり、色むらが生じますのでご注意ください。

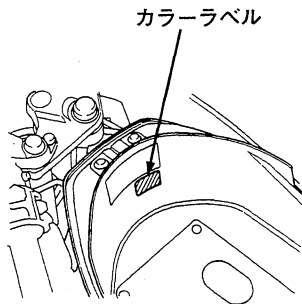


色物部品をご注文のとき

色物部品をご注文のときは、カラーラベルのモデル名とカラー、コードもお知らせください。

カラーラベルは、ラゲッジボックス内に貼ってあります。

ラゲッジボックスカバーを開けると(22 ページ参照)カラーラベルが確認できます。



マフラの純正マークについて

マフラの後部には、ホンダ純正部品を表す“HONDA”マークが刻印されています。

HONDAマーク

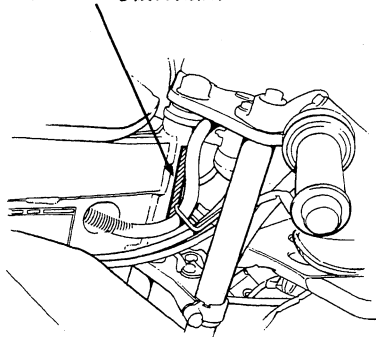


フレーム号機

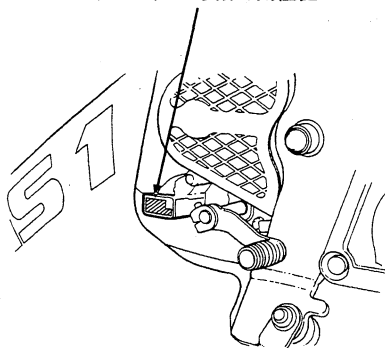
フレーム号機は、部品を注文するときや、車の登録に関する手続に必要です。

また、フレーム号機は、お車が盗難にあった場合に、車を捜す手掛りにもなります。ナンバプレートの登録番号と共に別紙に記録し、車と別に保管することをおすすめします。

フレーム号機打刻位置



エンジン号機打刻位置



エンジンが始動しないとき

始動しないまたは動かなくなったときは、次の点を調べてください。

- エンジンのかけかたは取扱説明書通りですか。
- 燃料タンクにガソリンはありますか。

1. メインスイッチをOFFにします。
2. チョークノブを完全に戻します。
3. スロットルを全開にします。
4. キックペダルを4～5回踏んでエンジンを回します。
5. メインスイッチをONにし 30 ページの始動要領でエンジンをかけてください。

故障の修理

- お近くのホンダ販売店にお申しつけください。
- むやみに修理しないで、早くホンダ販売店で点検整備を受けることが、お車を長持ちさせる秘けつです。

主要諸元

型	式	A—A C 12
長	さ	1,905 mm
幅		670 mm
高	さ	1,080 mm
軸	距	1,295 mm
総排気量		0.049 ℓ
車両重量		101 kg
乗車定員		1 人
タイヤ	前輪	90/80—17 46P
	後輪	100/80—17 52P
最低地上高		130 mm
燃料消費率		54.3 km/ℓ (車速30 km/h)
制動停止距離		3.0m (初速20 km/h)
最小回転半径		2.6m
圧縮比		7.2
圧縮圧力		11.0 kg/cm ² —400 r p m
最高出力		7.2 P S / 10,000 r p m
最大トルク		0.65 k g - m / 7,500 r p m
燃料タンク容量		8.0 ℓ

点 火 形 式		CDI式 マグネット点火
点 火 時 期		19° BTDC / 3,000 r p m
点 火 プ ラ グ	N G K	BR6ES BR7ES BR8ES
	N D	W20ESR-U W22ESR-U W24ESR-U
蓄 電 池 (バ ッ テ リ)		12V-3Ah
機関から変速機までの減速比		4.117
ク ラ ッ チ 形 式		湿式多板コイルスプリング
変 速 機 形 式		常時嚙合式
変 速 機 操 作 方 式		左足動式
変 速 比	1 速	3.545
	2 速	2.333
	3 速	1.722
	4 速	1.380
	5 速	1.217
	6 速	1.130
第 一 減 速 比		2.928

サービスデータ

ドライブチェーンのたるみ		10-20 mm
前輪ブレーキレバーの遊び		10-20 mm
後輪ブレーキペダルの遊び		10-20 mm
タイヤ空気圧	前輪	2.00 kg/cm ²
	後輪	2.00 kg/cm ²
エンジンオイル量(分離給油)		1.2 ℓ
トランスミッションオイル量	全容量	0.9 ℓ
	オイル交換時	0.8 ℓ
クラッチレバーの遊び		10-20 mm
ヒューズ		7 A
点火プラグの点火すきま		0.7-0.8 mm
エアクリーナエレメント	形式	ウレタンフォーム式
電球 (バルブ)	ヘッドライト	12V 35/30W
	ウインカランプ	12V 15W
	テール・ストップランプ	12V 5/18W



HONDA

00X30-GAA-6001

Ⓝ Ⓜ Ⓜ HC 9508 M

本田技研工業株式会社